

令和2年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
1 学校経営の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>① 専門教育を深化させるとともに、農・商併設のメリットを生かし、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりをチームとして推進する。</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を深め地域の教育力を生かした教育活動を展開する。</p> <p>③ 教職員研修の充実を図ることにより教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。</p> <p>④ 教職員が高い倫理観と使命感を持って業務にあたるとともに、業務の効率化に努めワーク・ライフ・バランスを図る。</p> <p>⑤ ホームページ等を活用し、積極的に教育活動に関する情報発信を行い、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 地域や社会に対応できる特色ある学校づくりの推進事業をチームとして推進</p> <p>② 「エンカル消費」の取組の推進</p> <p>③ 各教員が研修をとおして資質の向上</p> <p>④ 情報セキュリティポリシー遵守の徹底と出退勤管理システムの活用によるワーク・ライフ・バランスの適正化</p> <p>⑤ マスメディアを活用した広報やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信</p>	<p>評価指標</p> <p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の利用者を増加させる。 600人以上</p> <p>② 地域の行政や事業所等との連携を行う。 年間4回以上</p> <p>③ 学校訪問や研修など、研究授業を行う。 年間5回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーの利用を有効に活用し業務の効率化を図るとともに、情報資産持ち出し管理シートの活用を実施する。 100%</p> <p>④-2 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思を統一する。 ウイルスチェック 年6回以上</p> <p>④-3 出退勤管理システムを活用して、管理職が教職員の勤務時間を把握する。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 年100回以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① アグリ吉野川(含む鴨島駅前商店街)の利用者 570人</p> <p>② 吉野川市伝統文化「菊づくり」や「かもじま商店街にぎわいづくり」など継続実施 23回</p> <p>③ 年間を通して学校訪問や研究授業を実施 6回</p> <p>④-1 情報資産の取扱については、持ち出し管理シートに持ち出す日付を記入するとともに押印し、返却後、日付を記入し、管理職が確認している。 100%</p> <p>④-2 情報セキュリティに関するウイルスチェック 12回</p> <p>④-3 毎週、超過勤務の時間をチェックしている。 週1回</p> <p>⑤ 学校ホームページの更新 91回</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> アグリ吉野川の本年度の利用者数は、コロナ禍の影響もあり来客数が減少することを予想していたものの、地元放送局の特集などPRの効果もあり、多くの客数を集めることができた。スクールカフェ吉野川については、教職員を対象としたプレカフェを実施したものの、一般に向けた本開催は、できなかった。 地域や行政との連携においては、エンカルクラブの活動や「かもじま商店街にぎわいづくり」に加え、今年度、吉野川市伝統文化「菊づくり」を新規に行い、実施回数の上につなげた。 学校訪問や研究授業の実施については、計画的・継続的に実施し、本校の教育活動の質の向上を図ることができた。 Webページ(学校ホームページ)については、次年度に向けてWebページのリニューアルと更新内容のさらなる充実を目指して取り組むたい。 働き方改革においては、実現に向け、業務内容の見直しや進め方の効率化についての検討を進めたい。また、教職員においては、更なる意識の変革も必要である。 ニュースリリースは、効果的である。積極的に取り組むとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 鴨島駅前にぎわいづくりやスクールカフェ吉野川を継続し、次年度においてもPR活動や早めのチラシの配布などを行い更なる集客数の増加をめざしたい。 地域の設備を活用した教育活動を展開し、施設の利用方法についても啓発したい。 学校Webページを含め、ICTを積極的に活用した学校情報の提供のあり方やシステムについて検討したい。 Webページの活用について、単に更新回数だけでなく、中身について改善し持続可能な情報提供の運用方法についても検討したい。 SNSの活用についても検討したい。 働き方改革については、抜本的な方策が示しにくい部分もあり、教職員一人一人に働き方改革の趣旨を理解してもらえ様に努めていきたい。 ニュースリリースについては、積極的に取り組んでいきたい。
		<p>活動計画</p> <p>① アグリ吉野川やスクールカフェ吉野川の実施する日時をホームページやチラシの配布を通して地域住民の方々に周知する。</p> <p>② 「エンカルクラブ」を中心として、校内外での発表の機会を設けることにより普及・啓発に努め「エンカル消費」の推進を図る。 2回以上</p> <p>③ 研究授業の参観及び研究協議を実施し、授業力向上を図る。 5回以上</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用を徹底を図る。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図る。</p> <p>④-3 出退勤管理システムを適切に運用し活用する。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう、ホームページの更新や充実を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① アグリ吉野川の実施する日時の入ったチラシの配布やホームページを通して地域住民の方々に周知した。 ホームページ掲載 5回 チラシ配布 7回</p> <p>② 「エンカル消費」を推進するため、「遊山箱」の制作や林業センターでの研修に参加した。 2回</p> <p>③ 「公開授業週間」を実施し、授業の参観及び協議を実施した。 2回</p> <p>④-1 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図るとともに、資産管理シートの活用を徹底している。</p> <p>④-2 情報セキュリティポリシーを遵守し情報漏洩防止を図っている。</p> <p>④-3 出退勤管理システムを適切に運用し活用している。</p> <p>⑤ 保護者や地域に、本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムな情報を提供できるよう、ホームページの更新や充実を図っている。</p>			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和2年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
2 確かな学力の育成	(全体レベル) ① 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ思考力・判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養い、多様な人々との協働を促す。 ② 個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストとしての基礎をつくる。 ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。 ④ 主権者意識を高める教育を推進する。 ⑤ 消費者教育（「エシカル消費」を含む）を推進する。	評価指標 ①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回以上 ①-2 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を目的とした課題テストの実施 各学期1回 ①-3 学校評価アンケート ・生徒 授業満足度 85%以上 ・生徒 基礎学力向上にむけた取組満足度 普通教科 85%以上 専門教科 85%以上 ・生徒 定期考査期間中の家庭学習実施率 70%以上 ・保護者 学力向上・学習内容充実度 80%以上 ・職員 授業における新聞の活用度 70%以上 ①-4 図書館の利用促進 ・図書館貸出冊数 900冊以上 ・図書館入館者数 3,000人以上 ・図書館蔵書満足度 80%以上 ・図書館だよりの発行回数 年10回	評価指標の達成度 ①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回実施 ①-2 課題テストの実施 各学期1回 ①-3 学校評価アンケート ・生徒 授業満足度 78.4% ・生徒 基礎学力向上取組満足度 普通教科 77.2% 専門教科 87.5% ・生徒 家庭学習実施率 60.2% ・保護者 学力向上・内容充実度 82.5% ・職員 授業における新聞の活用度 61.8% ①-4 図書館の利用促進 ・図書館貸出冊数 730冊 ・図書館入館者数 2,332人 ・図書館蔵書満足度 65.3% ・図書館だよりの発行回数 3回	総合評価 B (所見) ・昨年度の結果と比較すると、生徒の授業満足度は約-3%だが、保護者の学力向上満足度は約+3%だった。臨時休業中の学習保障の取組等が影響していると考えられる。また、今年度途中から、授業において電子黒板が使用可能となったが、有効に活用できていない面もあると考えられる。 ・図書館関係は、全ての数値について目標に達することができなかった。利用促進に向けて、工夫をしていかなければならない。臨時休業も影響していると考えられる。 ・農業科は、日本農業技術検定3級で目標値には届かなかったものの、高い合格率であった。 ・商業科は、目標値には達していないものの3種目以上1級取得者が、昨年度よりも増加した。1年生の3級1種目以上取得率も昨年度よりも増加した。 ・フレッシュ研究Ⅱの一環で、2名の教諭がそれぞれ年2回研究授業及び研究協議を行った。 ・臨時休業のため、1学期末にアンケートを実施することができなかった。 ・例年、吉野川市選挙管理委員会から投票箱や記載台を借りて実施していた生徒会役員の選挙は、密を避けるために実施できなかった。	・何をもって「学力」というのか。生徒がいきいきと活動している方がアピールポイントにはなる気がする。 ・これからは、1つのニュースについて多方面から見る力が必要である。新聞を活用するだけでなく、他のメディアも活用して力をつけてほしい。 ・アンケートを過去と比較したり、生徒と保護者を比較したりするとギャップが見えてくる。そこに着目すると、課題が見つかる。 ・電子黒板をうまく使うことができれば、教員の負担も減り、働き方改革にもつながる。 ・写真や動画を電子黒板を用いて見せることで記憶にも残りやすくなるので、積極的に利用してほしい。 ・タブレットが、学びの道具となるような環境をつかってほしい。そのためにも、教える側の質を高めることは必要不可欠である。外部の方の話を聞いたり、講習を受けたりして実践的な使い方ができるようにしてほしい。	・電子黒板やタブレットの有効な活用方法を教職員間で共有し、生徒にとってわかる、生徒がより主体的に学ぶことができる授業の探求に努めたい。 ・図書館利用や、主権者教育、消費者教育は、画一的な指導ではなく、生徒の興味関心を引くようアプローチの仕方等、他校の取組等を積極的に取り入れたい。 ・農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得の意義を自覚し、目標を持って補習等に積極的に参加できる体制を整えたい。	
		②-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回以上 ②-2 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を目的とした課題テストの実施 各学期1回 ②-3 学校評価アンケート ・生徒 授業満足度 85%以上 ・生徒 基礎学力向上にむけた取組満足度 普通教科 85%以上 専門教科 85%以上 ・生徒 定期考査期間中の家庭学習実施率 70%以上 ・保護者 学力向上・学習内容充実度 80%以上 ・職員 授業における新聞の活用度 70%以上 ②-4 図書館の利用促進 ・図書館貸出冊数 900冊以上 ・図書館入館者数 3,000人以上 ・図書館蔵書満足度 80%以上 ・図書館だよりの発行回数 年10回	② [農業] ・フラワー装飾・室内園芸装飾技能検定 3級 本年度中止 生物活用科3年 受験率 100% ・日本農業技術検定3級 受験率97.4% 農業科学科、生物活用科1年 合格率81.1% 受験率 100% 合格率 90%以上 [商業] ・(1年)全商3級1種目以上 取得率 100% ・(2・3年)全商2級1種目以上 取得率 70%以上 ・全商1級1種目以上 取得者 30名以上 ・全商1級2種目以上 取得者 10名以上 ・全商1級3種目以上 取得者 5名以上 ・日商簿記3級合格 2名以上	② [農業] ・フラワー装飾・室内園芸装飾技能検定3級 本年度中止 ・日本農業技術検定3級 受験率97.4% 合格率81.1% [商業] ・(1年)全商3級1種目以上 取得率93.4% ・(2・3年)全商2級1種目以上 取得率 66.9% ・全商1級1種目以上 23名 ・全商1級2種目以上 6名 ・全商1級3種目以上 3名 ・日商簿記3級合格 2名	B ・農業科は、日本農業技術検定3級で目標値には届かなかったものの、高い合格率であった。 ・商業科は、目標値には達していないものの3種目以上1級取得者が、昨年度よりも増加した。1年生の3級1種目以上取得率も昨年度よりも増加した。 ・フレッシュ研究Ⅱの一環で、2名の教諭がそれぞれ年2回研究授業及び研究協議を行った。 ・臨時休業のため、1学期末にアンケートを実施することができなかった。 ・例年、吉野川市選挙管理委員会から投票箱や記載台を借りて実施していた生徒会役員の選挙は、密を避けるために実施できなかった。	・電子黒板をうまく使うことができれば、教員の負担も減り、働き方改革にもつながる。 ・写真や動画を電子黒板を用いて見せることで記憶にも残りやすくなるので、積極的に利用してほしい。 ・タブレットが、学びの道具となるような環境をつかってほしい。そのためにも、教える側の質を高めることは必要不可欠である。外部の方の話を聞いたり、講習を受けたりして実践的な使い方ができるようにしてほしい。	・電子黒板やタブレットの有効な活用方法を教職員間で共有し、生徒にとってわかる、生徒がより主体的に学ぶことができる授業の探求に努めたい。 ・図書館利用や、主権者教育、消費者教育は、画一的な指導ではなく、生徒の興味関心を引くようアプローチの仕方等、他校の取組等を積極的に取り入れたい。 ・農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得の意義を自覚し、目標を持って補習等に積極的に参加できる体制を整えたい。
		③-1 公開授業週間の参観率 80%以上 ③-2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った研究授業の実施 年3回以上 ③-3 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教科会等の実施 年3回以上 ③-4 生徒による「授業改善のためのアンケート」の実施 年2回 ・「学びの見通しと振り返り」、「学習規律」、「安心と受容」、「主体的能動的学び」の各項目に「あてはまる」と回答した生徒 80%以上	③-1 公開授業週間の参観率 77.7% ③-2 「主体的・対話的で深い学び」研究授業の実施 年4回 ③-3 「主体的・対話的で深い学び」教科会等の実施 年4回 ③-4 アンケートの実施 年1回 ・「学びの見通しと振り返り」、「学習規律」、「安心と受容」、「主体的能動的学び」の各項目に「あてはまる」と回答した生徒[あてはまる]と回答した生徒 78.2%	B ・フレッシュ研究Ⅱの一環で、2名の教諭がそれぞれ年2回研究授業及び研究協議を行った。 ・臨時休業のため、1学期末にアンケートを実施することができなかった。 ・例年、吉野川市選挙管理委員会から投票箱や記載台を借りて実施していた生徒会役員の選挙は、密を避けるために実施できなかった。	・電子黒板をうまく使うことができれば、教員の負担も減り、働き方改革にもつながる。 ・写真や動画を電子黒板を用いて見せることで記憶にも残りやすくなるので、積極的に利用してほしい。 ・タブレットが、学びの道具となるような環境をつかってほしい。そのためにも、教える側の質を高めることは必要不可欠である。外部の方の話を聞いたり、講習を受けたりして実践的な使い方ができるようにしてほしい。	・電子黒板やタブレットの有効な活用方法を教職員間で共有し、生徒にとってわかる、生徒がより主体的に学ぶことができる授業の探求に努めたい。 ・図書館利用や、主権者教育、消費者教育は、画一的な指導ではなく、生徒の興味関心を引くようアプローチの仕方等、他校の取組等を積極的に取り入れたい。 ・農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得の意義を自覚し、目標を持って補習等に積極的に参加できる体制を整えたい。	
		④-1 主権者教育に関するホームルーム活動や学校行事の実施 年2回以上 ④-2 「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒 75%以上	④-1 ホームルーム活動、学校行事の実施 1回 ④-2 「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒 66.9%	B ・フレッシュ研究Ⅱの一環で、2名の教諭がそれぞれ年2回研究授業及び研究協議を行った。 ・臨時休業のため、1学期末にアンケートを実施することができなかった。 ・例年、吉野川市選挙管理委員会から投票箱や記載台を借りて実施していた生徒会役員の選挙は、密を避けるために実施できなかった。	・電子黒板をうまく使うことができれば、教員の負担も減り、働き方改革にもつながる。 ・写真や動画を電子黒板を用いて見せることで記憶にも残りやすくなるので、積極的に利用してほしい。 ・タブレットが、学びの道具となるような環境をつかってほしい。そのためにも、教える側の質を高めることは必要不可欠である。外部の方の話を聞いたり、講習を受けたりして実践的な使い方ができるようにしてほしい。	・電子黒板やタブレットの有効な活用方法を教職員間で共有し、生徒にとってわかる、生徒がより主体的に学ぶことができる授業の探求に努めたい。 ・図書館利用や、主権者教育、消費者教育は、画一的な指導ではなく、生徒の興味関心を引くようアプローチの仕方等、他校の取組等を積極的に取り入れたい。 ・農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得の意義を自覚し、目標を持って補習等に積極的に参加できる体制を整えたい。	
		⑤-1 消費者教育（「エシカル消費」を含む）に関する学校行事の実施 年3回以上 ⑤-2 「エシカル消費を身近なものとして捉えることができる」と回答した生徒 70%以上	⑤-1 消費者教育の学校行事の実施 1回 ⑤-2 「エシカル消費を身近なものとして捉えることができる」と回答した生徒 68.1%	B ・フレッシュ研究Ⅱの一環で、2名の教諭がそれぞれ年2回研究授業及び研究協議を行った。 ・臨時休業のため、1学期末にアンケートを実施することができなかった。 ・例年、吉野川市選挙管理委員会から投票箱や記載台を借りて実施していた生徒会役員の選挙は、密を避けるために実施できなかった。	・電子黒板をうまく使うことができれば、教員の負担も減り、働き方改革にもつながる。 ・写真や動画を電子黒板を用いて見せることで記憶にも残りやすくなるので、積極的に利用してほしい。 ・タブレットが、学びの道具となるような環境をつかってほしい。そのためにも、教える側の質を高めることは必要不可欠である。外部の方の話を聞いたり、講習を受けたりして実践的な使い方ができるようにしてほしい。	・電子黒板やタブレットの有効な活用方法を教職員間で共有し、生徒にとってわかる、生徒がより主体的に学ぶことができる授業の探求に努めたい。 ・図書館利用や、主権者教育、消費者教育は、画一的な指導ではなく、生徒の興味関心を引くようアプローチの仕方等、他校の取組等を積極的に取り入れたい。 ・農業科・商業科とも、来年度も引き続き、各生徒が資格取得の意義を自覚し、目標を持って補習等に積極的に参加できる体制を整えたい。	

	活動計画	活動計画の実施状況		
(下位組織レベル)				
① 基礎学力の向上に向けた取組の実施	<p>①-1 学力向上委員会において取組の検証を行う。</p> <p>①-2 4月に「高校生のための学びの基礎診断」認定ツールを、9月と1月に学校独自のテストを実施し、基礎力の定着具合を把握する。</p> <p>①-3 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケート結果を用いて取組の検証を行う。</p> <p>①-4 図書館だよりを発行したり、図書委員による呼びかけや購入希望図書アンケートを実施したりすることで、図書館の積極的な利用や貸出冊数の増加を図る。</p>	<p>①-1 学力向上委員会において取組の検証を行った。</p> <p>①-2 4月に「高校生のための学びの基礎診断」認定ツールを、9月と1月に学校独自のテストを実施し、基礎力の定着具合を把握した。</p> <p>①-3 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケート結果を用いて取組の検証を実施した。</p> <p>①-4 図書館だよりを発行したり、図書委員による呼びかけや購入希望図書アンケートを実施したりすることで、図書館の積極的な利用や貸出冊数の増加を図った。</p>	<p>・ 6月に3年生対象で、主権者教育出前講座を実施することができた。講義だけでなく、立ち会い演説や模擬投票を実施することで、生徒の主権者意識の高揚に大いに役立った。</p>	
② 各種資格取得の奨励と補習体制構築による合格率の向上	<p>②-1 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底する。また、取得率向上に向けて、補習体制を強化する。</p>	<p>②-1 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底している。また、取得率向上に向けて補習を実施した。</p>		
③ 授業改善の推進	<p>③-1 公開授業週間を学期に1回ずつ実施し授業改善の機会とする。</p> <p>③-2 研究授業を実施し、研究協議を通して授業改善を図る。</p> <p>③-3 公開授業週間後に、教科会等を開き情報交換、情報共有を図る。</p> <p>③-4 生徒による授業評価を主要教科で行いその結果をもとに授業改善を図る。</p>	<p>③-1 公開授業週間を学期に1回ずつ実施した。</p> <p>③-2 研究授業を実施し、研究協議を通して授業改善を図った。</p> <p>③-3 公開授業週間後に、教科会等を開き情報交換、情報共有を図った。</p> <p>③-4 生徒による授業評価を主要教科で行いその結果をもとに授業改善を図った。</p>		
④ 公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の実施	<p>④-1 主権者教育指導計画に基づいて実施する。</p> <p>④-2 生徒を対象としたアンケートを実施する。</p>	<p>④-1 主権者教育指導計画に基づいて実施した。</p> <p>④-2 生徒を対象としたアンケートを実施した。</p>		
⑤ 各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の実施	<p>⑤-1 事業計画書に基づいて実施する。</p> <p>⑤-2 生徒を対象としたアンケートを実施する。</p>	<p>⑤-1 事業計画書に基づいて実施した。</p> <p>⑤-2 生徒を対象としたアンケートを実施した。</p>		

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和2年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
3 生徒指導の徹底	(全体レベル) ① 基本的な生活習慣の確立を図り、身だしなみを整え、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。	①-1 校門での登校指導実施率 100%	①-1 校門での登校指導実施率 100%	C	B (所見)
		①-2 校内外巡視の実施 100%	①-2 校内外巡視の実施 100%		
		①-3 頭髪服装指導時における違反率 各学年 3%以下	①-3 頭髪服装指導時における違反率 3%		
	② 教職員の共通理解のもと、保護者や地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。	①-4 学校評価アンケート ・生徒服装頭髪 90%以上 ・教職員服装頭髪 90%以上 ・保護者服装頭髪 90%以上	①-4 学校評価アンケート ・生徒服装頭髪 90.3% ・教職員服装頭髪 60.0% ・保護者服装頭髪 92.7%	B	A
		①-5 遅刻指導の徹底 遅刻率1.3%以下	①-5 遅刻指導の徹底 遅刻率 1.8%		
		②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時	②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民からの苦情や相談の処理を徹底 随時		
③ 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努める。	③-1 学年別の情報交換会実施 每学期1回	③-1 学年別の情報交換会実施 每学期1回実施	A	B	
	③-2 いじめのアンケートの実施 年3回	③-2 いじめのアンケートの実施 3回			
	③-3 いじめ行為等の事案が発生した時には速やかに委員会を開き適切に対応する。 随時	③-3 随時実施中			
(下位組織レベル)		活動計画	活動計画の実施状況		
① 日常的な生活指導による基本的な生活習慣の確立	② 保護者、地域社会、関係機関との連携	①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施する。	①-1 毎朝校門で頭髪服装指導を中心とした登校指導を実施した。	B	C
		①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施し、学校周辺の安全確保を図る。	①-2 生徒指導課を中心に、毎月1回、学校安全の日を実施した。		
		①-3・4 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。 ①-5 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図る。	①-3・4 生徒指導課を中心に、毎月1回、全校集会時に服装頭髪検査を行い、事後指導・継続指導を徹底した。 ①-5 遅刻が多い生徒との面談等を実施し改善を図った。		
③ 教職員間での情報の共有化及び連携強化	③ 教職員間での情報の共有化及び連携強化	②-1 職員朝会において共通理解を図る。	②-1 随時、職員朝会において共通理解を図った。	B	C
		②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応する。	②-2 保護者や地域住民・補導センターの苦情や相談に対して、迅速かつ誠実に対応した。		
		③-1 年度初めには学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有する。 ③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努める。 ③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行う。	③-1 年度初めに学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する情報を共有した。 ③-2 アンケートの結果により、面談等を実施し早期発見に努めた。 ③-3 事案が発生時、迅速に組織的な対応を行った。		

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和2年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
4 人権教育及び特別支援教育の推進	(全体レベル) ① 人権尊重を基盤とする普遍的・個別的な視点に立ち、学校教育活動全体を通して人権教育を推進する。 ② 自他を大切にする心や態度を育成する。 ③ 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。 (下位組織レベル) ① 人権学習ホームルーム活動の充実 ② 人権啓発活動の充実 ③ 教育相談・特別支援教育の充実	①-1 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 80%以上 ①-2 人権教育教職員研修の実施回数 年8回 ----- ②-1 人権映画会の生徒の満足度 80%以上 ②-2 文化祭展示用ポスター・標語・書道作品を作成する。 1年生全員提出 ②-3 人権の日の人権委員による啓発活動 年9回 ----- ③-1 教育相談ケース会の実施回数 年1回 (必要に応じて適宜) ③-2 心とからだの健康調査の活用 年3回 ③-3 カウンセリング室の開放 週1回 スクールカウンセラー活用事業年18回 ③-4 二者面談・三者面談に人権・相談課員の同席 適宜 ③-5 障がい者雇用希望者への職場見学、就労体験の情報提供 希望者に対して100%	①-1 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 80.2% ①-2 研修の実施回数 4回 ----- ②-1 人権映画会はコロナ禍の影響で実施しなかった。 ②-2 ポスター・標語・書道作品の作成 1年生全員提出 ②-3 人権の日の人権委員による啓発活動 9回 ----- ③-1 教育相談ケース会の実施回数 必要に応じて適宜実施 ③-2 心とからだの健康調査の活用 3回 ③-3 カウンセリング室の開放週1回 スクールカウンセラー活用事業 年18回 ③-4 二者面談・三者面談に人権・相談課員の同席 のべ3回 ③-5 職場見学、就労体験の情報提供 希望者に対して100%	C	B (所見)		
		①-1 人権教育主事と学年主任・担任との連携を図り人権ホームルーム活動内容を準備する。 ①-2 様々な人権課題について実態から学ぶ研修を実施する。 ----- ②-1 人権映画鑑賞によって人権意識を高める。 ②-2 夏季休業中の人権学習課題として、生徒から啓発作品を募集する。 ②-3 「人権の日」の事前に人権委員会を開き、人権委員の研修を実施する。 ----- ③-1 共通理解を図るため、教育相談ケース会を実施する。 ③-2 心とからだの健康調査を実施する。 ③-3 カウンセリング室を開放し、生徒個々の状態を把握し、外部との連携を図り対応する。 ③-4 相談内容に応じて、関係機関との連携・相談を図る。 ③-5 地域の障がい者就労支援機関に協力を依頼する。	①-1 人権意識調査を実施し、インターネットによる人権問題、偏見と差別、就職差別に関するホームルーム活動の事前研修会を4回実施した。 ①-2 人権ホームルーム活動を行う時は、事前の研修会を実施している。コロナ感染者に関する人権問題についての啓発を実施した。 ----- ②-1 人権映画会はコロナウィルス感染症予防のため実施しなかった。 ②-2 募集した作品の一部を学校祭前日より本館から北館への2階の渡り廊下に1年間展示し、啓発に役立っている。 ②-3 「人権の日」の事前に人権委員会を9回開き、人権委員の研修を実施した。 ----- ③-1 スクールカウンセラーからの情報提供(生徒承諾のあった内容)や今後の対応の共通理解を図るため、教育相談ケース会を実施した。 ③-2 心とからだの健康調査を各学期に実施し、生徒の状態を把握して対応した。 ③-3 カウンセリング室を開放し、生徒個々の状態を把握し、スクールカウンセラーとの連携を図り対応した。 ③-4 相談内容に応じて、関係機関との連携・相談を図った。 ③-5 必要に応じて地域の障がい者就労支援機関に協力を依頼し連携を図った。	B	・ コロナ禍の影響で休業となったため、人権学習ホームルーム活動事前研修会を含めて、研修は4回になった。 ・ 生徒による「人権の日」の啓発活動を毎月継続して実施している。2日前には生徒人権委員会で準備して、朝のホームルームにおいて人権委員が人権啓発文の発表を行っている。職員室においても同様の啓発活動を行い生徒・教職員とともに人権について考えるよい機会となっている。 ・ スクールカウンセラー活用事業で、隔週の水曜日に予約制で教育相談を実施した。生徒11名延べ31回、保護者1名、教職員4名の教育相談を受けた。継続して相談を受ける生徒の中には、相談後の生活状況が安定し、学業に励めたり、クラスの中に新たな友人関係を築けているという報告を、担任から受けている。 ・ 生徒の特性やアレルギー症状など、生徒と保護者の要望を考慮した就業先を開拓することができた。	・ 生徒はカウンセリングにネガティブな印象を抱いたり、不利に感じたりすることはないのか。 ・ 学校の柔軟な対応によって、カウンセリングを受けきつかけができれば良い。 ・ 様々な生徒が在籍しており、一人一人に合わせた対応を行わなければならない点は、難しいことだと感じる。	・ 今後も人権に関する啓発活動を積極的に取り入れるとともに、生徒の満足度が高まるよう事前研修会や教材の工夫及びアンケートの活用など指導方法を検討したい。 ・ 今後も引き続き、人権ホームルーム活動事前研修会を実施し、教職員の指導力向上を図りたい。 ・ 同和問題は、人権教育の中でも非常に重要な問題であり、まだ完全に解決していない状況である。これまで、水平社宣言や就職差別、結婚差別などを学習してきたが、さらなる深化を図っていく。 ・ 継続してスクールカウンセラー活用事業が受けられ、さまざまな悩みを抱える生徒の対応を充実させたい。 ・ 教職員で共通理解を図り、声かけや観察を行い、すべての生徒が充実した学校生活を送れるように努めたい。
				活動計画	活動計画の実施状況		

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和2年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
5 進路指導の充実	(全体レベル) ① キャリア教育を通して、望ましい勤労観・職業観の育成と自らの将来設計の構築を図る。 ② 個に応じたきめ細やかな進路指導を徹底する。 ③ 進路先の確保及び定着化のための指導体制の充実に努める。 (下位組織レベル) ① キャリア教育の推進 ② 生徒一人一人の希望がかなう進路実現 ③ 生徒の離職率の削減	評価指標 ①-1 外部講師招聘回数 年3回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施 年3回 ①-3 進路補習実施 夏期休業中に5回以上 ①-4 企業見学・職場体験の実施 30事業所程度 ②-1 保護者への説明及び情報提供 年2回 担任の面談実施回数 各人2回 ②-2 1・2年進路ホームルーム活動の実施 年4回 ②-3 就職・進学資料の提供 年5回 ②-4 特別な支援を必要とする生徒の進路相談 随時 ③-1 企業訪問の実施 100事業所 ③-2 学年ごとに教員研修会を実施 年2回	評価指標の達成度 ①-1 外部講師招聘回数 3回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施 1回 ①-3 進路補習実施 4回 ①-4 企業見学・職場体験の実施 32事業所 ②-1 保護者への説明及び情報提供 1回 担任の面談実施回数 3回 ②-2 ホームルーム活動の実施 3回 ②-3 就職・進学資料の提供 3回 ②-4 特別な支援を必要とする生徒の進路相談 随時 ③-1 企業訪問の実施 23事業所 ③-2 学年ごとに教員研修会を実施 1回	評定 A B C	総合評価 B (所見) ・休業の影響もあり、1学期の校内ガイダンスは、3年生のみで行った。 ・就職ガイダンスは、密を避けて2日に分けて開催した。 ・企業見学については例年通り実施した。就職選考が1ヶ月後倒しになったため、期間も長くなった。リモート開催が一部の企業で行われた。 ・コロナ禍で企業訪問は自粛をした。代替えとして進路概況の郵送を行い、情報提供に努めた。 ・「キャリアノート」や「ポートフォリオ」を活用した進路ホームルーム活動を行うことにより、生徒が記録し、将来に向けての取り組み等が自己評価できていた。 ・コロナウイルス感染症の関係で、思うような進路開拓を行うことができなかった。	・企業訪問等の減少により、情報が得られないのかもしれない。Zoomで聞き取りを行うなど、新しい形で実施する計画を立ててはどうか。 ・大学卒業の求職者の73%は、企業の社会貢献度が気になっている。時分も社会に貢献したいという気持ちの表れ。生徒のニーズに合った情報発信をしている企業を探すのもよい。 ・調べる力(調べ方)を生徒につけさせることが進路指導につながるのではないかと。 ・生徒の仕事に対する不安と業界の現状とのズレが、心配である。ガイダンス等を利用して、不安に思っていることの情報を得られれば、不安も払拭できるのではないかと。 ・先行きの不安を生徒は、どのように捉えているのか気になる。 ・3年間で「知識や技能を突き詰めたい」という思いを引き出してほしい。 ・今つけている力が将来生きてくるという感覚を、感じられるような指導をしてほしい。
		活動計画 ①-1 就職ガイダンス等において外部講師の活用を図る。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施する。 ①-3 就職・進学に向けた5教科の補習を実施する。 ①-4 希望する生徒・企業と連携して実施する。 ②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。 ②-2 「キャリアノート」や「ポートフォリオ」を活用した進路ホームルーム活動を実施する。 ②-3 全校集会等を活用し、進路に対する啓発を行うとともに、進路委員を通じて各ホームルームに資料提供する。 ②-4 特別な支援を必要とする生徒に対し、担当教員や外部組織と連携して進路指導を進める。 ③-1 新規の積極的な進路開拓を行う。 ③-2 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 就職ガイダンス等において外部講師の活用を図った。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施した。 ①-3 就職・進学に向けた5教科の補習を実施した。 ①-4 希望する生徒・企業と連携して実施した。 ②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施した。 ②-2 「キャリアノート」や「ポートフォリオ」を活用した進路ホームルーム活動を実施した。 ②-3 全校集会等を活用し、進路に対する啓発を行うとともに、進路委員を通じて各ホームルームに資料提供をした。 ②-4 特別な支援を必要とする生徒に対し、担当教員や外部組織と連携して進路指導を進めた。 ③-1 新規の積極的な進路開拓を実施した。 ③-2 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施した。			
		備考 評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成				

令和2年度学校評価総括評価表

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
6 活力ある特別活動の推進	(全体レベル) ① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主的・実践的な態度を育成する。 ② 1年生の部活動全員加入による部活動の活性化を図る。 ③ 地域の環境整備など地域の活性化に貢献できる連携活動を推進する。 (下位組織レベル) ① 新学習指導要領に基づいたホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事の活性化 ② 部活動及び農業クラブ活動の活性化並びに学校リーダーの育成 ③ 自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進	①-1 生徒会活動に対する満足度 75% ①-2 あいさつ運動実施 年10回以上 ①-3 ホームルーム活動の充実度 75% ①-4 各種委員会の充実度 75% ①-5 学校祭の満足度 78%	①-1 生徒会活動満足度 89% ①-2 あいさつ運動実施 6回 ①-3 ホームルーム活動充実度 75% ①-4 各種委員会の充実度 77% ①-5 学校祭の満足度 85.1%	A	B (所 見) ・ 挨拶運動では生徒会が中心となり「あいさつをしよう」という看板をもち大きな声で挨拶を行うなど積極的に取り組んでいる。また、生徒会役員がクラスでもリーダーとなり、様々な学校行事で活躍している。 ・ 部活動入部率は全体で81.8%と前年より大幅に減少した。これは、1年の入部率が下がったためである。来年度は、また90%以上に戻したい。 ・ 新型コロナのため、各種大会については、ほぼ全てが中止となった。来年度は今まで同様、商業関係の部活動の活性化を図るとともに商業関係科目への学習意欲の強い生徒をより増やしていきたい。 ・ 農業科においても、農業クラブの発表や競技会がほぼ中止となった。商業科同様、四国大会・全国大会への出場を目指し努力させたい。今後も、本校独自の工夫を凝らした指導を継続していきたい。
		②-1 部活動加入率 1年100%、2・3年75% ②-2 各部主将・部長会 年3回以上 ②-3 各部での取り組みと目標 (商業) 情報処理競技会、珠算・電卓競技会、ワープロ競技、簿記コンクール、意見体験発表大会、商業研究発表、簿記新人大会 3位以内 (農業) 日本学校農業クラブ各種発表会県予選において、最優秀賞受賞 2部門以上 押し花アート、フラワーアレンジメント等のコンクール出品 全国入賞：1作品以上 県内入賞：5作品以上	②-1 部活動加入率 1年75% 2年・3年88.5% ②-2 各部主将・部長会 2回 ②-3 各部での取り組みと目標 (商業) 本年度は中止 (農業) 日本学校農業クラブ各種発表会県予選 本年度中止 押し花アート、フラワーアレンジメント、手工芸展等のコンクール出品 優秀賞：1作品 佳作：1作品	B	
		③ 地域清掃を年に3回以上行う。	③ 地域清掃 2回	B	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善について指導する。 ①-2 校門であいさつ運動を毎月実施する。 ①-3 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施する。各環境委員を中心に地域の方と連携し、江川周辺の環境整備活動を実践する。 ①-4 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催する。	①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善について指導をした。 ①-2 校門であいさつ運動を毎月実施した。 ①-3 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施する。各環境委員を中心に地域の方と連携し、江川周辺の環境整備活動を実践した。 ①-4 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催した。		
		②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図り、入部率を向上させる。部活動紹介や勧誘方法を工夫する。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導させる。 ②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指す。プロジェクト発表及び意見発表について、専任の教員が担当する。更に、各顧問等の指導により、アグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。	②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図ることで、入部率の向上を図った。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導した。 ②-3 コロナの影響でプロジェクト発表及び意見発表が中止となった。		
		③ 学校周辺及び鴨島駅までの通学路の清掃活動を生徒会と環境美化委員が行う。	③ 学校周辺及び鴨島駅までの通学路の清掃活動を生徒会と環境美化委員が2学期に行った。		

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和2年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) ① 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 ② 「新学校版環境ISO」承認取得校としての活動を推進する。 ③ 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。 (下位組織レベル) ① 防災教育の充実及び自己の健康管理能力の育成 ② 節電・節水・ゴミの分別を行い、校内美化および適正な農薬散布の徹底 ③ 食育の実施	①-1 防災に関する情報提供 年5回以上 ①-2 避難訓練 年3回実施 ①-3 防災クラブの活動 年5回以上 ①-4 保健だよりの発行 年8回 ①-5 各種講演会の実施 年3回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 年3回	①-1 防災に関する情報提供 2回 ①-2 避難訓練 2回 ①-3 防災クラブの活動 0回 ①-4 保健だよりの発行 5回 ①-5 各種講演会の実施 0回 ①-6 健診結果を通知 随時 ①-7 心身の健康に関する保健調査 1回	B	B (所見)
		②-1 電気・水道の使用量が前年度を下回る。 88%以上 ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 81%以上 ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 88% ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 イオウ合剤の使用年1回以下 80%	②-1 電気・水道の使用量が前年度を上回る月は3ヶ月あったがその他の月では下回ることができた。 ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 88% ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 80% ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 集計中	C	
		③-1 食育通信の発行 年1回 ③-2 食育関連講習会の実施 年3回以上	③-1 食育通信の発行 1回 ③-2 食育関連講習会の実施 0回	B	
		活動計画	活動計画の実施状況		
	①-1 防災計画を周知徹底するとともに防災情報を提供する。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所・防災備蓄品の確認及び防災講演会を実施する。 ①-3 学校内外で活動を行い、その活動内容を報告する。 ①-4 保健だよりを発行する。 ①-5 心肺蘇生法講習会・歯科保健指導等を実施する。 ①-6 保護者に検診結果を通知する。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。	①-1 防災計画を周知徹底するとともに防災情報を提供した。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所・防災備蓄品の確認及び防災講演会の実施を計画している。 ①-3 学校内外における活動内容の報告を予定中。 ①-4 保健だよりを発行した。 ①-5 心肺蘇生法講習会・歯科保健指導等を実施した。 ①-6 保護者に検診結果を通知した。 ①-7 保健調査を実施し心身の健康問題を把握に努めた。			
	②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行う。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行う。 ②-3 クリーンデイの実施と環境美化委員会による清掃活動を行い、状況等についてアンケート調査を行う。 ②-4 適正な農薬散布を徹底する。	②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行った。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行った。 ②-3 クリーンデイの実施と環境美化委員会による清掃活動を行った。状況等についてのアンケート調査を行う予定。 ②-4 適正な農薬散布を徹底した。			
	③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行う。 ③-2 PTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかける。	③-1 食育通信の編集方法に工夫を加え、より効果的に啓発を行った。 ③-2 PTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し、食事の重要性を呼びかけた。			

【備考】評価における「評価」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成